

小学校

部門目標

幅広く深い学びと、困難を乗り越えながら心身を鍛える経験を通じ、豊かな感性とたくましい実践力を持った子どもを育てる。

重要施策

1

国際理解教育の推進

施策達成のストーリー （現状の課題・達成後の姿）

自国の文化を理解し、確実な語学力を身に付けるための基礎を身につけ、将来世界でも活躍できる語学力と国際感覚を持った子どもを育てる。
オーストラリア体験学習を再開するとともに、6年生だけでなく、他学年にも体験型イベントを導入し、国際理解の機会の充実を図る。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

オーストラリア体験学習の参加者数

- ・オーストラリア体験学習を再開して安全な実施をしている。
- ・希望者全員をオーストラリア体験学習に参加させられるよう提携校を増やし、安定的な海外プログラムを行っている。
- ・オーストラリア体験学習の参加者が1グループ20名、4グループ計80名に達している。

ジュニア・エンパワメント・ワンデー・プログラム満足度

- ・6年生だけでなく、5年生の希望者にも国内での体験プログラムを提供し、国際理解教育を充実させ、90%以上の満足度を維持している。

国際理解国内プログラムの導入と参加希望者数

- ・1年生～4年生についても、国内で行えるプログラムを順次導入し、国際理解教育の充実を図る。
- ・2027年度までに1年生～4年生対象の国際理解プログラムへの参加者が120名に達し、2028年度には全学年の参加者が240名に達している。



小学校

部門目標

幅広く深い学びと、困難を乗り越えながら心身を鍛える経験を通じ、豊かな感性とたくましい実践力を持った子どもを育てる。

重要施策

2

ESD・SDGs活動や一貫連携教育を活用した探究活動の充実

施策達成のストーリー
（現状の課題・達成後の姿）

ワンキャンパスを活かした体験型学習や本物に触れる学びの機会を通じ、既に定評のある探究活動をさらに充実させるとともに、それらも含めた積極的な広報活動を行う。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

継続的な一貫連携教育プログラム実施回数

- ・ワンキャンパスを活かし、行事やクラブ学習だけでなく、日常的な学びに関する一環連携教育プログラムを開発・継続している。
- ・継続的な一貫連携教育プログラムを年間15回以上実施している。

学校として参加するアワード数

- ・子どもたちの取り組みを支援し、各種アワードへの参加機会を増やしている。
- ・学校として参加するアワード数が年間8件以上に達している。

ESD・SDGs活動実施回数

- ・ESD・SDGs活動の実施回数が年間50回以上になっている。
- ・ESD・SDGs活動を通じて子どもたちの視野と探究活動の幅を広げ、それらも含めた積極的な広報活動を行っている。



小学校

部門目標

幅広く深い学びと、困難を乗り越えながら心身を鍛える経験を通じ、豊かな感性とたくましい実践力を持った子どもを育てる。

重要施策

3

教育力の充実

施策達成のストーリー (現状の課題・達成後の姿)

教科教育や行事、日々の教育活動等を通じ、成蹊教育を伝承するとともに、新しい時代に生きる子どもたちを育てることを意識しながら、学校全体で、教育力の充実を図る。

評価指標

6年後（2028年度）の到達目標について

デジタル機器を用いた研究授業の回数

- ・日々の学習や課題提出等にもデジタル機器を活用する体制を構築し、子どもたちの学びの幅をさらにひろげられている。
- ・デジタル機器を用いた研究授業の回数が年間40回以上になっている。

他者理解や多様性に寛容な心の育成

- ・子どもたち同士が互いに他者理解に努め、自律の心とともに、多様性に寛容な心を育む努力を日々継続している。
- ・多くの子どもたちが、多様性に寛容な心を持つには自律の心が必要であることを知り、実践できている状態にある。

「個性の尊重」に関する学校アンケート理解度

- ・学校も家庭も、個性は安心して出せる集団の中でこそ伸長され、子どもは子どもの中でこそ育つものであることを理解している。
- ・「個性の尊重」に関する学校アンケートにおける理解度が90%以上となっている。

